

## 東南置賜地区の県立高校再編整備計画（骨子案）に係る地域説明会【米沢市会場】記録要旨

- 1 日 時 令和元年5月31日（金）19：00～20：30
- 2 場 所 置賜総合文化センター
- 3 出席者 地域の方々 48名  
県教委 須貝教育次長、生島高校改革推進室長、外 事務局職員4名
- 4 内 容 生島室長から概要説明後、質疑応答
- 5 質疑応答概要

### （質問・意見）

- ① 昼間の定時制高校を米沢商業高校跡地に設置する案が示されているが、教員の配置はどのようになるのか。また、1学年1学級規模の高校の運営は可能なのか。
- ② 令和7年度以降、中学校卒業者数は1年に40～50名が減少することがグラフから読み取れるが、令和17年度までに学級減は適宜行われるのか。

### （県教委）

- ① 独立校舎となるため、定時制の高校だけで勤務する教員を配置し、現時点では、他校から教員が移動して教えることは考えていない。1学年1学科の昼間定時制独立校舎の高校として、平成30年度に夜間から移行した酒田西高校がある。酒田西高校は、独立校舎に配置された教頭や教員のみで教育活動を行っている。
- ② 学級減を含む長期的な再編の詳細については、令和7～8年度の検討となるが、中学校卒業生数の減少に伴い、学級減を実施していくことが想定される。

### （質問・意見）

- ① 中期的な再編により米沢市内の2つの高校を統合した場合、2校の学力差が問題となるのではないか。
- ② 統合した際に、全学年同じ制服となるよう配慮して欲しい。
- ③ 米沢興譲館高校が他校と統合しても、伝統のある米沢興譲館の校名は残して欲しい。

### （県教委）

- ① 2校が統合されても、学科が異なるため、学力差の問題は生じないと考えている。実際、県内には複数の学科を設置する高校が多数あるが、特に問題ない。
- ② ご意見として頂戴する。制服については、令和3年度からの開校整備委員会、開校準備委員会の中で具体的に検討することになる。これまで、4校統合した酒田光陵高校は、統合した際に全員新しい制服が揃うようにしたが、2校統合した村山産業高校は、統合した際の1年生だけ新しい制服に揃え、2・3年生は統合前の高校の制服をそのまま着用した。
- ③ 米沢興譲館高校は、藩校時代から300年以上続く伝統ある学校であると認識している。長期的再編の検討における意見として頂戴する。

### （質問・意見）

- B案の方が、進学に対応する高校、就職に対応する高校と明確であり理解されやすい。米沢興譲館高校や米沢工業高校は校舎改築の際に郊外に設置されたが、地域との関わりや地域社会

との連携を考えれば、街中に高校を設置することはできないのか。市街地に高校があれば、保護者も安心であり、生徒も通学しやすい。

(県教委)

- 令和7年度の統合により米沢東高校または米沢工業高校の校舎を活用しているが、どちらの校舎も新しく耐震性もあることから、令和7年度の校舎移転は現実的でない。長期的再編の検討における意見として頂戴する。

(質問・意見)

- A案とB案を比較すると、B案の方がメリットが多いと説明があった。検討委員会の検討結果にその趣旨の記載があったのか、または、検討委員会の検討結果を踏まえて検討した結果、県の考えでB案の方がメリットが多いと考えたのか、どちらなのか教えて欲しい。

(県教委)

- 県教育庁は、検討委員会から提出された2つの案が併記された報告書に基づき、諸条件を整理しながら具体的な検討を進めたところ、客観的に、B案の方がメリットが多いという見方ができるのではないかと考えただけで、B案に決定したいということではない。皆様がどのような考えをお持ちなのかご意見をお聞きし、参考にしたいと考えている。

(質問・意見)

- ① 各学校の教室に空きがあるならば、段階的に再編統合するのではなく、米沢市内の高校だけでも、専門学校同士だけでなく普通科高校同士も一緒に統合した方が良いのではないかと。中学校統合に係る説明会で、配置される教員数は生徒数に応じて決まると聞いたことがある。生徒数の減少に伴い、専門的な教員が配置されず、生徒が専門的な授業を受けることが出来なくなってしまう状況となり、進学面で不利益が生じるのではないかと。
- ② 統合の際は、新しいデザインの制服に替え、1年生から3年生までの制服が揃うよう検討して欲しい。

(県教委)

- ① 米沢工業高校を例にとると、8学級規模で校舎建築されたが現在5学級である。余っている教室もあるが、多目的教室として使用するなどして有効に活用している。中期的再編を検討する際には、校舎活用などのハード面も踏まえ、総合的に判断してA案、B案をお示しした。長期的再編の検討における意見として頂戴する。
- ② 制服については、令和3年度からの開校整備委員会、開校準備委員会で具体的に検討することになる。これまでも新しい高校の制服は、統合前のどちらかの高校の制服に合わせるのではなく、全く新しいデザインの制服とした。過去には、両校の先生だけでなく、生徒・保護者にもデザインについての意見を求めたこともある。

(質問・意見)

- 中期的再編により1つの高校に複数の学科が設置されることになるが、同じ学校に在籍中に、入学した学科から他の学科に転科することは可能なのか。

(県教委)

- 学科ごと、3年間で学ぶ科目が決まっているため、学科を途中で変更することはカリキュラム上できない。新高校の具体的な教育課程は今後検討することになるが、自分の所属する学科と違う学科の科目を選択して学習できる総合選択制の導入を想定している。実際今まで複数の学科を統合した高校は、この総合選択制の仕組みをとっている。全く異なる考え方になるが、入学してから自分の興味関心に応じて専門科目から科目を選択して学べる学科として総合学科がある。総合学科の場合、2年生、3年生でしか専門科目を学ぶことが出来ないため、3年間専門学科を学ぶ工業科、商業科、農業科などの専門学科と比較すると専門性が低くなることは否めない。

(質問・意見)

- ① 参加者が少なく残念である。地域説明会の開催についてもっとPRすべきであったのではないかと。
- ② B案に賛成である。より統合再編を進めて、米沢産業高校に南陽高校、高畠高校、置賜農業高校も統合し置賜産業高校としてはどうか。

(県教委)

- ① 東南置賜地区の小学校・中学校・高等学校をとおして、すべての児童・生徒の保護者に案内ちらしを送付したほか、また各市町の広報誌にも掲載し、県政ラジオでも広報した。多くの方に説明会に参加していただけるよう、PRの方法を検討したい。
- ② 長期的な再編の詳細については令和7～8年度の検討となるが、長期的な高校配置の意見として頂戴する。

(質問・意見)

- 米沢興譲館高校と米沢東高校は戦後の一時期同じ高校であったこともあり、この2校が統合することについては何の問題もない。米沢興譲館高校と米沢東高校は学習のレベルに違いがあり、また米沢興譲館高校の中でも学習レベルに違いがあり、この2校が統合すれば、入学した生徒の間で大きな学力差が生まれることが懸念される。生徒の実態やレベルにあわせた進学指導がなされることを期待したい。

(県教委)

- 中学校卒業生数の減少により、統合後も進学と公務員対策など複数の役割を担う状況になることも想定できるが、詳細については、令和7～8年度に検討していきたい。

(質問・意見)

- 現在、南学区には普通科高校が複数設置されているため、普通科を希望する生徒には複数の選択肢がある。しかし、B案では、西置賜地区に長井高校があるものの、長期的には東南置賜地区には普通科高校が米沢新B高校の1校だけになることが想定され、普通科を希望する生徒の選択肢が限定されてしまう。中学生に選択肢を提供するため、再編統合にあわせて学区制についての検討もしてほしい。

(県教委)

- 以前に開催した地域説明会でも、学区制について検討を求める声があった。県内のどの高校

も選択できるように学区を無くして、選択の幅を広げて欲しいという高校を選択する側の思いは理解できる。一方で、学区制の廃止により、ますます一極集中化が進んでしまい、周辺地域において、子どもの数が加速度的に減少して高校存続が厳しくなる。結果、近くの高校がなくなり、長距離通学を余儀なくされることも想定されるため、学区制の見直しは簡単なことではなく、今回は、今ある学区の枠組みの中で再編整備を検討してきたことを理解いただきたい。学区の在り方については、今後も考え続けなければならないことであると認識している。

**(質問・意見)**

- 令和8年度に設置する昼間定時制の高校は、霞城学園高校をイメージしてよいのか。

**(県教委)**

- 霞城学園高校は、午前・午後・夜間の定時制と通信制をもつ高校である。どの時間帯の昼間定時制となるのかはまだ決まっていないが、霞城学園高校の昼間部のようなイメージでよいのではないか。

**(質問・意見)**

- 米沢商業高校の校舎に昼間定時制高校が設置される説明があったが、霞城学園の体育の面接指導(スクーリング)などを、霞城学園高校に通わずに米沢商業高校の校舎で受けることはできないのか。

**(県教委)**

- 霞城学園高校通信制では、置賜地区において米沢、長井で支部学習会を行っており、2週間に1度程度、平日の夜に面接指導(スクーリング)を受けられるなど柔軟な対応をとっている。ただし、実技を伴う体育の面接指導の場合、教員だけでなく体育施設も必要であり、霞城学園本校での実施となっている。全く可能性がないとはいえないが、現在協力校の設置はない。

**(質問・意見)**

- 米沢市内の2つの高校は郊外にあるため、長距離通学となっており、特に冬期間の通学に苦慮している生徒が多い。高校の統合により高校の数が少なくなれば、最寄りの高校までの距離が遠くなるため、長距離通学を強いられる生徒が増えていくことが予想されるが、スクールバスの運行は検討されているのか。娘をもつ親として、子どもが夜遅く歩いて帰宅するのは心配である。

**(県教委)**

- 以前の地域説明会でも同様の意見をいただいた。課題として受け止めたい。しかし、米沢市の高校には生徒が広域から通学しており、スクールバスの運行は、路線、経費などの面で制度設計が大変難しい。また、特定の高校に生徒が集まりやすくなるようなスクールバスの運行は出来ない。

**(質問・意見)**

- A案とB案のメリットを比較する際、置賜地区への中高一貫校の設置についての検討はされたのか。

**(県教委)**

- 中高一貫校を設置するとなると、県立中学校を新設することとなり、市町の中学校への影響

も配慮する必要があることから、地元が望まない限り、県が一方的に設置することはないことを基本方針としてきた。東南置賜地区だけでなく西置賜地区も含めた置賜全体に関わることであると考えている。

中高一貫校を設置することを前提として、高校再編を検討したわけではない。あくまでも、高校の在り方としてどちらが望ましいのか、A案、B案のメリットを比較した。もし、将来中高一貫校を設置するとなったときには、その時の高校の在り方に応じてどのような学校をつくるのかを検討していくことになる。

以上